

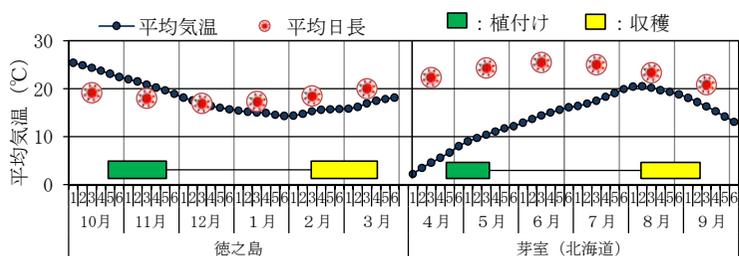
鹿児島県でのバレイショ栽培では中晩生の品種で収量が高い

鹿児島県で生産するバレイショは中晩生で茎葉が収穫まで維持される品種の収量が高い

背景・目的

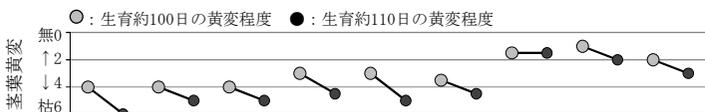
- ・本県のバレイショ種いもは主に北海道産を用いており、種いもが不足するときは様々な品種を導入
- ・「ニシユタカ」、「ホツカイコガネ」など本県主力品種以外の生育特性、収量性は不明
- ・生産安定のため、他道県、特に北海道育成品種の本県における品種特性を明らかにすることが必要

成果の内容

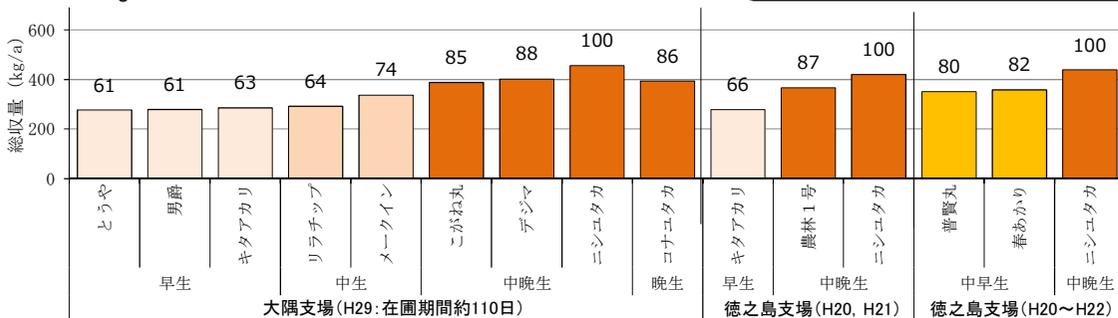


各産地の平均気温と平均日長の比較

・本県のバレイショ作型は生育期の日長が短い
・バレイショは日長が短い環境下では茎葉の黄変が早まる



・中晩生の品種は、茎葉が収穫まで維持され、生産が安定



品種の早晩性と茎葉黄変、総収量

導入メリット

・本県における品種特性が明らかとなり、中晩生品種を選択して導入することが可能
・他の品種は、栽培技術の検討が必要



中晩生品種



早生品種

本県に適する品種の導入

- ・バレイショの安定生産が可能
- ・農家の所得、経営の安定化

期待される効果

バレイショの安定生産、生産性向上

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場園芸作物研究室・徳之島支場園芸土壌研究室

普及対象・範囲 バレイショ栽培農家

(鹿児島県園芸振興協議会)